

令和7年度 第2回狭山市社会教育委員会 会議録

開催日時 令和7年10月3日(金) 14時から16時まで
開催場所 狭山市立中央図書館 視聴覚室
出席者 八瀬邊委員 宮地委員 石井委員 鈴木委員 角田委員 河口委員 上西委員
栗原委員 片山委員 太田委員 長谷川委員 渡邊委員 菅野委員 柴野委員
欠席者 石塚委員 恵比須委員 中間委員 品田委員 田中委員 平岡委員
事務局 五十嵐生涯学習部長 石井社会教育課長 久保田 福村 立花 小暮
傍聴者 0名

1 開 会

2 生涯学習部長あいさつ

3 議長あいさつ

4 議 事

(1) 第4次狭山市教育振興基本計画(素案)について

委員対象の事前アンケートよりいただいた意見への回答を中心に事務局より説明を行った。
その後の質疑に関しては以下のとおり

委 員 「地域クラブ活動」の用語について説明はあるのか。

事務局 注釈を入れる予定である。

委 員 満足度で評価していくとあるが、イベントへの来場者だけでなく、イベントを開催する参加者の満足度の調査をしていくべきではないか。

事務局 本年度より、調査方式を変更して来場者だけでなく、参加者に対しても実施する予定となっている。

委 員 「学び直し」や「リカレント教育」という文言を追記してはどうか。

事務局 市民検討委員会等の結果も踏まえて検討していく。

(2) 協議テーマ「地域の担い手としての当事者意識」における有志チームの報告について事務局及び有志チームより説明を行った。

委員 広報物は見過ごされてしまうことが多いのではないかとと思うが、どのように周知していくのか。

事務局 公共施設等でのチラシ及びポスターの配架及び掲示、また小・中学生の保護者へスクリーン配信及び市のSNS等の活用を考えている。

委員 地域の担い手は大人だけではなく子供・若者も重要と考えるが、提示案は主に成人を対象とするものだと思うので、子供・若者の担い手バージョンもあれば良いのではないかと。

有志 全世代を対象に想定しており、どの世代が手に取っても見てもらえるよう工夫する。

委員 例えば「スマホの操作が分からないなら教えますよ」というようなことが表現されると、悪意の者が善意を装って高齢者に近づき詐欺等の犯罪行為に繋がるのではないかと。また、支援行為が有償なのか無償なのかも分からない。

有志 デザインの趣旨としては、地域の担い手についての啓発で、自分にも何か出来ることがあるかも知れないと気づいたり、アクションを起こしてみようと思ってもらうことが目的で、個人と個人を支援行為で結びつけるためのものではない。しかし、ご指摘のような懸念を予想していなかったため、そのようなことが起きないように、二次元コードから遷移する先で安心安全の仕組みへ案内誘導を行うといったことも含めて検討する。

委員 チラシの作成主体、意図、趣旨、目的等の説明がチラシ本体にないと、見た人にはこのチラシが何なのかが分からない。二次元コードからアクセスして確かめようという前に捨てられてしまうのではないかと。小さい文字でも構わないので記述しておくべき。

委員 多くの市民に担い手について理解してもらい、担い手が増えるということが目的であると思うので、そのようなことも含め必要事項が明記されたチラシ作成の趣意書、企画書といったものをまずは作成しておくのが良いのではないかと。

事務局 いただいた意見をもとにデザインを検討する。

5 事務連絡

6 閉会